

■ 臓器移植への関心、4 年前より減少 一方で身近な体験や教育が啓発のきっかけに

内閣府は 9 月、夏に実施した「移植医療に関する世論調査」の速報値を発表しました。臓器移植に「関心がある」と答えた人は 62.3%で、前回 2021 年調査から 3.2 ポイント減少しました。

関心を持つきっかけで最も多かったのは「運転免許証やマイナンバーカードに意思表示欄があったから」(63.9%)でした。「身近に臓器提供をした人や検討した人がいるから」(6.7%/前回 5.3%)や「学校の授業などで話を聞いたから」(6.1%/前回 5.1%)と答えた割合は、前回より増加しており、身近な体験や教育を通して関心を持つ人が広がっている様子がうかがえます。

また、臓器提供について「意思表示をしている」と答えた人は全体の 21%にとどまり、「意思表示をしていない」が 76%と大半を占めました。

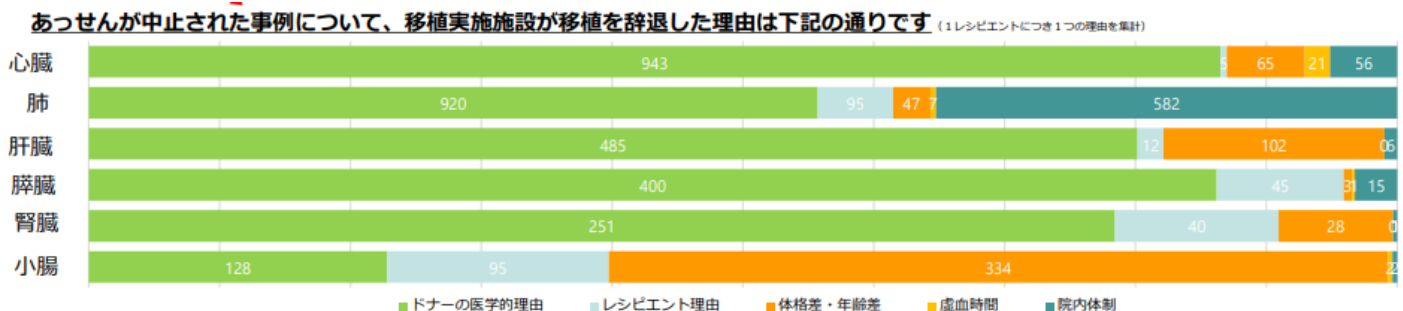
一方、自分が脳死や心停止と診断された場合に臓器を「提供したい」と考える人は 42.8%（前回 38.5%）で増加しており、逆に「提供したくない」は 23.8%（前回 24.3%）とわずかに減少。提供への考えはあっても、実際に意思表示にまで至っていない現状が浮き彫りになっています。

参考： <https://survey.gov-online.go.jp/202509/r07/r07-ishoku/gairiyaku.pdf>

■ 臓器移植見送り 1 年間で 4691 人 厚労省が対策を検討

厚生労働省は 9 月に開かれた臓器移植委員会で、昨年 1 年間の脳死下における臓器移植について、医学的理由などにより臓器のあっせんが見送られた患者はのべ 4691 人にのぼったことを明らかにしました。

また同委員会では、移植をあっせんする「日本臓器移植ネットワーク」の業務の一部を地域ごとの新たなあっせん機関に移管するなど、見送り事例を減らすための対策を進めている方針も示されました。



参考 <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001554772.pdf>

■ 10 月 16 日は「家族の日」・「グリーンリボンデー」



全腎協では、臓器移植法が施行された 1997 年 10 月 16 日にちなみ、毎年 10 月 16 日を「家族の日」とし、患者自身も移植を希望する人もそうでない人も、この日は家族や周囲の人と臓器移植や提供の意思について話しあってみよう、と呼びかけています。

同じく日本臓器移植ネットワークでも、臓器移植医療への理解が広がることを願いこの日を「グリーンリボンデー」と制定しています。

10 月 16 日を中心に、東京タワーをはじめ、全国の著名なランドマーク等がグリーンにライトアップされます。ドナーへの感謝に加え、移植医療への理解促進、移植を希望する人たちや移植医療を支える医療者へのエールの意味を込めて展開されます。各地のライトアップの日程や場所等の情報は、下記および右 QR コードで確認することができます。この日をきっかけに、みなさんもお家族や身近な人と臓器移植について話し合ってみてください。



参考 <https://www.green-ribbon.jp/greenlightup/>